

# 江北の四季

令和2年  
4月12日  
第1号

○湖陽会の皆様、いかがお暮らしですか。コロナ禍のため総会が無くなり、記念花展も延期を余儀なくされました。新型コロナウイルスの終息は見えず、悪くすると二三年は厳しい状況が続くのではと危惧します。

事業部長を拝命し楽しくてにぎやかな記念花展をと思っていました。この社会情勢ではなすすべもありません。

学校も三月の総理大臣の休校要請に続き、四月からは三日月知事の要請によりまた一ヶ月の休校となりました。子供たちに自粛を要請している状況で、一教員である私（フルタイムではしていませんが、四月からは数時間ですが頼まれて非常勤講師をしています。）も出歩くこともできず、桐山先生の所での稽古も自粛することになりました。

皆様方も私同様悶々とした毎日を過ごされておられるのではと思います。そこで、湖陽会通信のようなものが発行できないかと考えましたが、集まって相談することも

難しい状況ですので、松村個人の私信のようなものをつくってみることにしました。皆様の暇つぶしか話の種にでもしていただければ幸いです。引き立ての先生には、もし面白ければ社中の皆様にもラインで回していただければ幸いです。

○我が家の前（南側）は元は田んぼでしたが、平成二十一年に埋め立てをし、平成二十二年からガーデニングの真似事を始めました。今年で十年目の庭です。我が家ではこの庭を、草が多いことから「ナチュラルガーデン」と呼んでいます。



園路（ダイジーなど）

ガーデニングとは言っても仕事のほとんどは雑草との格闘です。昨日四月十一日は一日中、スズメノエンドウを抜いていました。スズメノエンドウ、ご存じですか。カラスノエンドウはご存じかと思えます。昔、



イカリソウ



小さなチューリップ

子供の頃はシービービーという名で呼んでいましたが、豆のサヤから種を取ってシービービーと吹き鳴らして遊んでいました。



ウズメノエンドウが初めてCBBのことかと思えました。このCBB



左：スズメ 右：カラス

つまりカラスノエンドウをふたまわりほど小さくしたような植物です。手で引くと簡単にちぎれてしまい、根元からまた出てくるので、根からとらなければならぬので大変手間がかかります。スズメノエンドウもカラスノエンドウ同様、実がいとサヤがはじめて種を周囲にまき散らすので、一つでも取り忘れると次の年にまたスズメノエンドウ取りに精を出すこととなります。実は昨年この草をほとんど完璧に取ったつもりだったのですが……。ガーデニングを始めた頃はこの草は無かったのですが、梅の木の周囲に多く生えていることから、スズメか何かがどこかでこの実を食べて、何年前かに我が家の梅の木にとまっとうんちをしたのではと想像をしています。雑草に隠れて気がつかないうちに大繁

殖をしてしまいました。ちなみにカラスノエンドウよりひとまわり小さくて、スズメノエンドウよりもひとまわり大きくて、見た目はほとんどスズメノエンドウと同じようなものもあります。何とその名は、カラスとスズメの間の大きさなので、カスマグサといえます。



斑入り小手毬



山吹

○庭にはいろいろな花木を植えています。満開を過ぎて散りかけたのは、紫木蓮、レングヨウ、ユキヤナギ、そして利休梅です。これらは三月の主材として玄関や床の間には春の風情を運んでくれました。今、満開なのは山吹、斑入り小手毬そしてジュンベリー

リーです。



ジュンベリー

今日はそれらの声を聴きながら半日かけて何とか形にできました。桐山先生に手直しをしていただけないのが残念です。



ジュンベリーの一種生け

相方の水仙は日本水仙に始まって、黄房水仙、口紅水仙、ラップ水仙と来ましたが、いよいよ終わりに近づきました。椿も十一月頃から世話になりましたが、こちらもうすぐ終わりですねえ。寂しいなあ。



芝桜



生花新風体  
椿と斑入り小手毬



立華新風体：山吹とトキワマンサク



芝桜と黄花アリッサム



満開の紅花トキワマンサク

○皆さん、お願いです。お稽古の花の写真、ぜひ投稿してください。簡単なコメントがあると嬉しいです。ラインで送っていただければ、この紙面に載せさせていただきます。花との関わりや好きな花などのエッセイ等もぜひお願いしたいと思います。長くなるようでしたらデータをメールで送っていただけるとありがたいです。皆さんの投稿があると、この通信もきつと楽しいものに成るでしょう。